

事務所の経営統合と積極的なIT化戦略で急成長、サン共同税理士法人のビジョンに学ぶ

サン共同税理士法人（東京都港区）は、平成28年の開業からわずか5年間で、東京都を中心に8拠点を擁する税理士法人へと成長を遂げている。その急成長の原動力となっているのが、積極的なIT化戦略と強みのITを生かした他事務所との経営統合であり、特にRPAの導入をいち早く推進し、業務効率化とコスト削減を実現している。規模の拡大にあわせて、M&A事業や人材紹介業など、幅広いビジネスを展開している。今回の取材では、代表社員で青山オフィス所長の朝倉歩氏（写真左）と日本橋オフィス所長の坪池剛氏（同右）に、同社の新型コロナウイルス対策や経営統合のメリット、DXへの取り組みなどについて伺った。

開業5年目で8拠点、75名規模に成長

—— 本日は、サン共同税理士法人の代表社員税理士で青山オフィス所長の朝倉歩先生、社員税理士で日本橋オフィス所長の坪池剛先生にお話を伺います。

サン共同税理士法人は、開業5年目の若い事務所ながら、徹底したIT化とM&Aによって急成長を遂げている会計事務所です。朝倉先生の弊誌へのご登場は、2019年4月号、同7月号、2020年3月号に続いて4回目となります。

これまでの記事では、同社のM&Aを活用した拡大戦略や、IT活用の一環としてのRPA（Robotic

Process Automation）導入による業務効率化の取り組み、全国の会計事務所に向けたRPA普及活動などについてお話しいただきました。

今回の取材では、同社の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大への対応、昨年行われた日本橋オフィスとの統合の経緯や、共同会計事務所としての強み、DX（Digital Transformation）への取り組みなどについて伺いたいと思います。

まずは朝倉先生から、サン共同税理士法人の概要をあらためて紹介していただけますか。

朝倉 サン共同税理士法人は平成28年に、私がかつて勤めていたデロイト・トーマツ税理士法人時代の同僚や予備校時代の友人たちと一緒に設立

しました。上場企業やIPO関連のお客様に対する連結納税・組織再編・国際税務のほか、新設法人のお客様も多く関与させて頂いており、

元システムエンジニアの税理士や公認会計士からなるIT会社、銀行出身者からなる融資支援会社、会計事務所経験者の在宅パートに特化した人材紹介業を行う人材紹介会社、社会保険労務士法人を擁した土業グループです。会計税務や資金調達支援といった業務以外に、ITコンサル事業や人材紹介事業やM&A事業など、幅広いビジネスを展開しています。

拠点は現時点で、東京都の青山、八王子、板橋、日本橋、五反田、北千住と、神奈川県横浜、兵庫県の西宮に8オフィスを構えています。

スタッフ数は、正社員が約45名（うち税理士が15名）、パートがほぼ在宅で約30名です。

—— 次に、坪池先生に伺います。日本橋オフィスの前身である税理士法人アイ・パートナーズが、サン共同税理士法人グループに加わった経緯を教えてくださいませんか。

坪池 私がこの業界に入ったきっかけは、もともと勤めていたコンピュータ・システムの会社で税理士の方々と関わったことです。自分も税理士の資格を取ろうと思いつき、税理士試験の勉強をしながら、個人事務所や監査法人で経験を積みました。そして、平成24年に坪池剛税理士事務所を開設しました。その5年後に、税理士法人アイ・パートナーズを設立しています。



坪池 剛 (つぼいけ・たけし)

サン共同税理士法人日本橋オフィス所長。税理士。コンピュータシステム販売会社の営業部、個人会計事務所、税理士法人、監査法人を経て、平成24年に坪池剛税理士事務所を開業。平成29年、税理士法人アイ・パートナーズを設立。代表社員として、法人約200社、個人約100名のクライアントに關与。令和2年、経営統合によりサン共同税理士法人のパートナーとして日本橋オフィス所長に就任。



朝倉 歩 (あさくら・あゆむ)

サン共同税理士法人代表社員。青山オフィス所長。税理士。平成16年より約12年間、現デロイトトーマツ税理士法人に勤務。シニアマネージャーとしてトーマツ重要クライアント(T40/INNOVATIVE)のうち10社以上の主任を担当。平成28年にサン共同税理士法人を設立。税理士法人設立後、5年間で6度の会計事務所の承継および統合を行っている。平成31年にサン共同RPAコンサルティング株式会社を設立。自社開発システムやRPAなど最新のITを利用した会計事務所業務の効率化に力を入れており、RPA導入支援事業を行っている。独自にRPA体験会・会計事務所見学会を開催し、全国の約200事務所の税理士事務所が参加。全国の税理士事務所に会計事務所向けDX支援や人材紹介も行っている。

サン共同税理士法人とは、同社の勤務税理士時代の先輩を介して、関わりを持つようになりました。その先輩をお手伝いするなかで、朝倉先生の事務所経営理念や手法に共感し、半年ほど前に統合したという経緯になります。

**コロナ禍以前から
テレワーク環境を整備**

—— 続いて、貴社の新型コロナウイルス感染拡大への対応について伺います。
朝倉 複数の拠点を持つ当社は、コロナ禍以前からリモート対応やペーパーレスといった環境づくりに力を入れてきました。

平成29年にはテレワークガイドラインを定めて、完全ペーパーレスを実現させて全ての調書も電子化し、自社独自のクラウドシステム（AMS）を開発して、ウェブシステムで遠隔で業務が完結するようにしました。また、Zoomを全員に貸与し、仮想環境（VDI）をつくってどこかの拠点でも作業やレビューができるようにしました。ですから、コロナ禍に見舞われても慌てることなく、

スムーズにテレワークに移行できました。
新型コロナウイルス対策としては、「郵送なし・手入力なし」のルールにより、お客様とはデータでのやり取りを原則とし、「固定電話なし」により出社負担がなく、お客様と担当者とのやりとりもPhoneでの直接通話でのみ行っています。ペーパーレス徹底により、プリンターを置いてない拠点もあります。

納付書は原則としてペイジー納付（ダイレクト方式による電子納税）で、申告書の納品も自社システムで「顧客フォルダ」に納品する仕組みになっています。訪問はもとと少ないですが、訪問・来所だけでなく社内の会議も在宅勤務が多いのでビデオ会議です。訪問・来所を減らせるいい機会になりました。
—— 万全の新型コロナウイルス対策といえますね。

朝倉 当社の主要顧客は新設法人で設立時からの関与になるので、新型コロナウイルス対策というよりも、この方式を基本としています。契約の際に、データ提供やビデオ会議にご協力頂ければ割引できますとお伝えしています。
データプラン推進チーム（各拠点1名ずつ選任）により郵送なしを原則とし、ネットバンキング、ペイジー納付、PDF納品、電子契

約書、Webゆづびんなどを導入し、郵便なしを徹底しています。郵送物はGoogleフォームでスプシ管理し、不要な郵送をなくす努力を続けています。固定電話を自動応答にして営業電話を減らし、全スタッフPhone利用で固定電話もほぼ鳴りませんが、郵便と固定電話がないと、事務職スタッフもかなりテレワークが進むと考えています。
—— 在宅勤務が原則というのも画

期的です。
朝倉 大手税理士法人はほとんどそのような運用と聞いています。私自身、ほとんど在宅勤務で出社していませんが、社内会議もZoomやZoomのビデオ会議でびっしり埋まっています。事務所の会議室よりビデオ会議のほうが断然効率がいいです。大企業でもオフィスを手放す時代ですから。また、会社の強みを前面に出すという意味もあります。



事務所名

サン共同税理士法人

代表社員

税理士 朝倉 歩

所在地

- 東京 / 青山オフィス 東京都港区
- 東京 / 八王子オフィス 東京都八王子市
- 東京 / 板橋オフィス 東京都板橋区
- 東京 / 日本橋オフィス 東京都中央区
- 東京 / 北千住オフィス 東京都足立区
- 東京 / 五反田オフィス 東京都品川区
- 神奈川 / 横浜オフィス 神奈川県横浜市西区
- 兵庫 / 西宮オフィス 兵庫県西宮市

グループ会社

- サン共同社会保険労務士法人
- サン共同財務支援コンサルティング株式会社
- サン共同 RPA コンサルティング株式会社
- 株式会社サン共同会計事務所
- サン FAS 株式会社
- 在宅経理株式会社

顧問先数

約 1500 社

構成人員

75 名 (2021 年 1 月現在。税理士 15 名、パート 30 名を含む)

—— こうした取り組みに対して、坪池先生はどのような印象をお持ちですか。

坪池 極めて画期的な取り組みであり、今の時代にマッチしていると思います。日本橋オフィスは年齢の高いお客様が多く、データのみのやりとりには抵抗があるようですが、若いお客様はすぐに対応していただきありがとうございます。コロナ禍の今は、むしろ助かっているのではないのでしょうか。

統合のメリット

—— それでは、貴社の大きな特徴である他事務所との統合の進め方、得られるメリットなどについて伺いたいと思います。まず、朝倉先生は統合に際して、どのような点を重視されていますか。

朝倉 私が、他の事務所との統合に

あたって重視しているのは、「ソフトランディング」です。したがって、統合したからといってただちにシステムや給与規定、就業規則などを統一することはありません。初年度は、従来の事務所のやり方をそのまま承継します。

とPhoneでも使える「コミュニケーションツールの「Chatwork」の活用は比較的スムーズに導入が進みました。勤怠や申請関連は自社システムを利用してはもらっていますが、自社システムと「Chatwork」を連動させることで、自社システムの「タイムレポート」に個人のアイデアや感想を手軽に集約するなど、メールソフトでは不可能な情報共有が実現します。

在宅スタッフでも遠隔でサポートできるようにするために、会計ソフトをクラウド会計や弥生に替えたケースもありますが、移行作業も在宅パートが作業してくれます。メリットがあるものだけ導入してもらうイメージです。

—— 坪池先生は、統合によりどのようなメリットが得られたと感じていらっしゃいますか。

坪池 統合前は、人材と対顧客サービスの面で課題を抱えていました。朝倉先生との話し合いで、それらについてもサポートしてくださるといわれたことも、統合を決めた理由のひとつです。

現在は、在宅パートの採用などで人材不足は解消しましたし、ITの活用により出社することもなくなり、業務時間も短縮されています。

—— 在宅ワーカーとはスムーズにやりとりできているのでしょうか。

坪池 最初は当事務所のスタッフも戸惑っていましたが、すぐに慣れたようです。毎週Zoomなどでミーティングを行い、進捗状況などを報告・連絡していることもあり、在宅

ワーカーさんには先手先手で仕事を依頼できています。

—— ここまで仕組みが出来上がっていると、在宅ワークといってもかなり計画的に仕事を進められるようになりますし、効率化にもつながっていると感じます。

統合のもうひとつの大きなメリットは、他拠点と人材の共有ができることです。例えば、日本橋オフィスだけでは対応しきれない案件などは、他拠点のスタッフに協力を要請しています。「Chatwork」によって依頼できるので、お客様へのレスポンスが遅れることもありません。

—— こういった共同会計事務所としての連携とその仕組み、業務の進め方は極めて画期的であり、統合のメリットを大いに実感しているところですか。

業務ごとに適切な自動化ツールを選定・導入

—— ここからは、貴社のもうひとつの特徴である業務のIT化について伺います。さまざまな業務にRPA

Aを導入されている貴社の、DXへの取り組みについてお聞かせください。

朝倉 自動化に大きな力を発揮しているRPAですが、当社はRPAだけにこだわっているわけではありません。システムや無料のウェブサービスで解決できるものはそちらを利用していますし、マクロやプログラミングで自動化しているものもたくさんあります。

RPAも、そういった自動化ツールのひとつと考えており、現在は「Ezrobot」をメインに使っているものの、他のRPAも使っております。以前はメールの添付ファイルの自動保存はRPAを使っていましたが、今はGoogleのサービスを利用しているということもあります。重要なのは、その自動化の対象となる業務にどのツールが合うかどうかですから、その都度ITチームが調査し、ツールを探し出しています。

—— 先ほど仰っていた「Chatwork」の活用についても、詳しく教えていただけますか。

朝倉 「Chatwork」はメールや自社システムなどと連動させています。自社システムの「タイムレポート」には、各自スタッフが日々思いついたアイデアなどを入力する項目がありますが、このアイデアなどが記入されれば、すぐに「Chatwork」に転送され、その日に私がすべて対応しています。スタッフの声がタイムリーに経営に生かされる仕組みを心掛けています。

そのほか、何でも自動的に「Chatwork」に送られるようになっていきます。お客様からの問い合わせも含まれるので、レスポンスが迅速になります。RPAを使ってメールからスプレッドシートへ自動転記するという管理もしています。

なお、請求書や見積書の作成、経費申請、レビュー依頼など申請・承認関連のやりとりは「Chatwork」ではなく、自社システムを使用しています。申請につき承認履歴管理を残せるのと、最も重視しているのが（効率化のため）申請や承認では文章は記載しないことです。申請ボタンや承認ボタンのステータス管理機能を充実させ、「○○さん、お疲

れ様です。〇〇の承認お願いしま
す。」などの文章を記載せずに「承
認」「却下」などクリックだけでや
り取りが済むように自社システムを
開発しています。申請や承認後は、
各自のトップ画面に通知されるよう
なっています。

在宅ワーク環境を整えれば 人材は集まる

—— 昨今、コロナ禍の影響もあつ
てか、ＩＴリテラシーの低い会計事
務所から高い事務所への転職を希望
する方が増えている印象を受けます。
貴社の採用状況はいかがですか。

朝倉 令和2年3月以降だけで、全
拠点を合計して20名近く採用しまし
た。第一志望で当社を選んでくれる
人が多く、優秀な人材がそろいまし
た。元エンジニアの税理士や会計士
などＩＴに強い方が数名入ってくれ
ました。

—— その辺りも多拠点の強みでし
ようか。

坪池 私は、「Chatwork」を最大

経営統合とDX強化で さらなる拡大を目指す

—— お二人の今後の抱負、中期的
なビジョンをお聞かせください。坪
池先生からお願います。

坪池 私は統合後、会計事務所はど
う発展していけばよいのかについて
より真剣に考えるようになりました。
キーワードは発想の転換です。ＩＴ
時代、コロナ時代の勤務形態は在宅
が基本であると、頭を切り替えなけ
ればいけないと思っています。

そのうえで、ＩＴを駆使して拠点
間の連携をさらに強化し、お客様に
ワンストップでサービスを提供でき
る体制を整えていくことが当面の目
標です。

今後、中小企業経営者の悩みごと
もさらに増えていくことでしょう。
われわれは、ＩＴを使った新しい仕
事の進め方も提案していく必要があ
ると思います。税務周辺の付随業務
にも、次々と新しいシステムが取り
入れられるようになるでしょうから
それらをウォッチしながら、お客様

限に活用しているところが、グルー
プの結束力強化につながっていると
思います。当初は「拠点」という感
覚でしたが、最近は拠点間の隔たり
を感じなくなりつつあります。スタ
ッフにも同様の感覚が広がっている
らしく、すごいことです。

朝倉 統合すれば、当然ながら規模
のメリットが生まれます。ブランド
力もクオリティも上がり、採用が有
利になります。当社の場合、それに
加えて経理人材の紹介事業を営んで
おり、その人材を拠点間で共有して
いることも、大きな強みになってい
ると思います。具体的には、在宅経
理のサイトに応募があると自動で在
宅経理サイトに反映され、メールが
飛び、そこに応募一覧が出ます。チ
ームリーダーには面接の権限を与え
ているので、その一覧を見て面接を
したい人がいれば、ピックアップし
てもらいます。

つまり、繁忙期に備えた人材の補
充などは、トップダウンではなくチ
ームの判断でできるようにしてい
ます。採用に関しては、この仕組み
がひとつの特徴です。

をサポートしていきたいと思っています。
朝倉 弊社では一部の人員だけでな
く、事務所全体でＩＴに強い事務所
となっていく必要があると思ってい
ます。全員がエンジニアの知識を持
つという意味ではありません。税務
で節税を提案する知識が必須のよう
に、会計も作業の自動化を提案でき
る知識が必須です。手入力の（熟練
工の）弥生会計しかできないスタッ
フが20時間かかる作業が、自動化を
使えば1時間で終わる月次作業があ
りました。その差19時間はお客さん
に報酬負担を求めるか、会計事務所
の利益が失われるかのどちらかと
なり、どちらかハッピーではありません。

M&Aについては双方にメリット
のある事務所統合は継続していくつ
もりです。先ほど坪池先生が仰った
とおり、日本橋オフィスのお客様に、
国際税務や連結納税を専門とする青
山オフィスのスタッフが回答したり、
資産税に強い板橋や横浜オフィスの
スタッフが提案をしたり、入社した
ばかりでリソースに余裕のある八王
子のスタッフがサポートしたり、日

—— 現在、在宅経理人
材はどれくらい在籍して
いるのですか。

朝倉 750名超です。
在宅経理人材は当初から
多くの応募がありました
が、新型コロナウイルス
感染拡大の影響で応募が
3倍以上に増え、現在は
年間1000人ほどの応
募があります。

テレワーク環境は、税
理士会から通達が出たこ
ともあり、会計業界でも
急速に広まりつつありま
す。改めて検証してみ
ると、会計事務所の業務の
大半は、出所しなくても
できることが分かってき
ました。

そして、応募者の多くは当社によ
る接触に不安がある人です。例えば、
高齢者と同居されている方が、在宅
勤務が認められず動いていた事務所
を辞めざるを得なくなるなど、優秀
な人材がテレワーク環境のある事務
所に流れているようです。

本橋オフィスの上場準備会社との面
談に青山オフィスの会計士が対応し
たりする連携事例が、徐々に増えて
いきます。

また、ＩＴ投資における投下資本
の回収という観点からは、新たに開
発したシステムを使う人間が多いほ
どよいわけで、そういう意味では、
M&Aによる規模の拡大のメリット
はあると思います。共有するお客様
も増え、相乗効果で全体に売上アッ
プにもつながると思っています。

—— 最後におひとりずつ、弊誌の
読者である会計事務所の皆様にメッ
セージをいただけますか。

坪池 将来に不安を抱いている税理
士さんは、私の周りにも大勢いらっ
しゃいます。顧問先拡大は必須で
すが、単独で集客するのはだんだん難
しくなっています。
これからは、朝倉先生のようにＩ
Ｔを駆使してネットで集客する形が
主流になるでしょう。それを頭では
分かっているけど、行動に移せない人
は多いと思います。
私どもは集客の面でもサポートし
ていきますので、ぜひともご相談い

サン共同税理士法人が展開する「在宅経理」会計・経理の在宅ワーク



<https://san-kyodo.jp/zaitaku-keiri/>

つまり、在宅ワークを可能にすれ
ば、人は採れます。であれば、会計
事務所は出社型正社員の採用に躍起
になるよりも、テレワーク環境の整
備に力を入れるほうが、人材確保の
近道になるといえるのではないでし
ようか。

ただきたいと思っています。
朝倉 なかなか先の見えにくい世
中ですが、少なくとも過去10年以上
に今後10年でさらに大きく変わって
いくことだけは間違いないでしょう。
その変化は、税法の変化以上にＩＴ
環境の変化のほうが激しくなるのは
いうまでもなく、あらゆるものがど
んどん劇的に便利になっていくはず
です。その便利さについていけるか
いけないかが境界線だと思います。特
に、ＩＴと人材の分野で大きく変化
していくはずですが、RPAに限らず、
さまざまなもの自動化され人材が
見直されていくでしょう。

自動化にはシステム選定をはじめ
さまざま専門知識が必要になりま
す。サン共同グループとしては、今
後の変化に対応するべく、ＩＴと人
材の部分をさらに磨くとともに、多
くの会計事務所さんとタッグを組み
ながら、会計事務所業界を明るくし
ていきたいと思っています。

—— サン共同税理士法人のさらな
る発展を祈念しています。本日は貴
重なお話をありがとうございました。